

令和5年度第2回図書館協議会（議事録要旨）

日時 令和6年3月7日(木) 午後2時～

場所 豊明市立図書館会議室

出席 委員（8名） 土居、橋本、近藤、野々山、杉原、柴田（初）、鈴木、石垣
事務局（3名）
欠席 委員（1名） 柴田（美）

議題

- (1) 図書館の基本方針について
資料1「図書館の基本方針」に基づき説明。
- (2) 令和6年度事業計画（案）について
資料2「令和6年度事業計画（案）」に基づき説明。
- (3) その他
「豊明市図書等郵送貸出要綱」の文言見直し

質疑応答等

(1) 図書館の基本方針について 資料1

委員：クラウドファンディングはどのくらい集まったか。

事務局：令和4年度は138件、1,534,000円。令和5年度は84件、1,263,000円。目標額は200万円。

委員長：図書館は情報源であり地域文化の拠点として考えており、これだけのクラウドファンディングが集まったと思うと嬉しい。私達も気持ちを前向きに新しい試みを行いまたそこから新しい図書館が生まれ、市民1人1人にとって良い形で進んでいくと思う。あと、トイレがすごく清潔で光が入り嬉しく思う。気になる点は、女子トイレの窓枠が昔の大きさのままのためちょっと見えやすいのか、目隠し用の紙が貼ってあった。窓は防犯上の事もあり、掃除以外はできれば施錠してほしい。掃除する人や職員にも少し配慮をお願いしたい。本当に気持ち良く使いやすくして、そういう所から集客ができると思う。

委員：基本方針の「図書館が市民の調査研究の相談相手となり」や、主な事業3の「レファレンスサービスの充実」という文言があり、来館時にレファレンスサービスの初期段階だと思うが、旅行に行きたいという問い合わせに受付の人がすぐに案内し、しばらく利用者と話していた。そこで口頭で利用者の声を聞きつつ対応をしていたと思うが、あまりレファレンスサービスを受けている利用者に会ったことがない。レファレンスサービス利用状況も去年は125件、私自身ネット検索や大きい本屋に行く等、調べきれない時にレファレンスサービスは本当に有効だと思う。レファレンスサービスを大々的に受け入れるとなると結局は人がいるが、職員を見ていると潤沢に人がいないと思うので、今は受付しながら利用者から声が掛ればレファレンスサービスを提供するという形だと思うが、今の職員体制の中でどんな現状なのかを聞きたい。あと、ぜひこの方針にあるレファレンスサービスの充実は進めていただきたい。

事務局：レファレンスは9割程がクイックレファレンス。「本がどこにあるか」と聞かれ、「こちらです」というのが多い。深いレファレンスについては年に数件程度。基本的に窓口職員ではなく2階にいる司書を呼び、しっかり時間を取って対応する形にしている。

委員：ぜひ1人、常駐できる人的配置を今後お願いしたい。

委員長：そうすれば本の案内や、検索機を使えない高齢者にも配慮ができる。

委員：堪能な司書は「何々について知りたい」と言うと、そこから発展したワードを調べて、これはどうかという提案をしてくれる人もいます。ぜひ受付業務兼用ではなく、この時間は専任で1人いるという形になると良いと思う。

委員長：人がいないのであれば、例えば本の修復や読み聞かせ等色々なことを手掛けている人達がいるので、ボランティア性の高い人を育成してぜひその時間に配属するのはどうか。あと、図書館協議会委員として関与しているが、貸出にボランティア枠があることを知らなかった。令和6年度は広報等で、ボランティア活動をしている人にボランティア枠があり貸出ができること、レファレンスサービス等の周知をお願いしたい。今はネット等いろいろあるが、広報や活字を通してしか情報が得られない人も沢山いると思うので、その辺りのサービスもお願いしたい。

委員：ボランティア枠は、たしか登録しているボランティアの人しかダメなはずでは？

事務局：図書館のボランティア団体に登録している人に貸出している。

委員長：自分がボランティアをしているとわかれば貸してもらえろと思いついていた。

委員：大型絵本や大型紙芝居がたくさんあり、図書館の規模にしては結構充実していると思うが、やはり登録しているボランティアしか借りられない。

委員：大型絵本について何回か話をしているが枠が小さい。他所は大型絵本を普通に貸出、並べている所が結構ある。大型絵本は子供会や誕生日会で見せるとすごく喜んだという話を何回かしている。図書館で1つボランティア枠を作り、団体登録ではなく何かそこにはめ込んで貸し出せるようなものを作ってもらいたいと思う。結構興味を持つシニアの人が少しずつ増えてきていると思うので、シニアが喜ぶような絵本を準備するのも1つのアイデア。

委員：大型絵本や大型紙芝居は金額的に高価で数も少なく、一般に貸すと何かあった時の信用性の問題が理由なのかと勝手に思っていた。一般ではなく地区の老人会で使う感じで貸出を認めると、いろいろ幅広く選択肢が増えると思う。

委員長：今のボランティア枠はどこかに所属してないとできない規約があるが、それを取り払うことも。

委員：もうちょっと緩めても。

委員長：足がなく借りに来るには誰かに頼まないと来れないし返すのも大変で、自分の体力、年齢も重ねている人はいろいろな不安もあり、どこかの団体に入って活動というのは難しい。単発的に頼まれたら借りれるような仕組み作りができると思う。

事務局：制度について知らないことが問題かと聞いていて思った。各団体、町内会で団体登録をすれば、大型絵本も大型紙芝居も貸出可能。

委員長：先程の南館区に居住している人が、区の方で申し込めばなんとかなるか。

事務局：どちらも説明したが登録しない、あくまでも個人貸出で10組という話だったため、今は難しいと答えた。

委員長：昔の絵本やお話・民話は回想法や、認知予防にも良いと言われている。年を重ねたからこそ良い学びだったり、知っていても新しい発見が色々な形で出てくると思う。そういう新しい発見をすると心がトキメいて、そういうトキメキや嬉しさを絶やさず、年を重ねて地域で暮らせることも大事だと思う。そういう意味でも図書館が情報拠点の1つとして、また地域文化を活発にするためにも目指すべき図書館であって欲しいと強く思っている。

事務局：紙芝居10組の話は、豊明は貸出10冊内に紙芝居2組という決まりだが、それは昔紙芝居が全部で600組位しかなかった頃に決められたルールであり、今後は10冊内で紙芝居を何組でも借りて良いという形に変更していく予定。図書館の方でも、高齢者向けの紙芝居を増やしているところで、そちらの紙芝居も高齢者にわかるような表示等、何か方法を考えていこうと思っている。

委員：高齢者向けの紙芝居はどういうものか。

事務局：かさじぞうとか、小さい頃に読んだ昔話の紙芝居が多い。

委員：高齢者向けに何年かやっているが、一番人気があるのが尾崎紅葉の金色夜叉の紙芝居。よく知られているのは貫一お宮が熱海の海岸へ行き、海岸で振る所。そこで終わるが、後編がある。また別冊があり、貫一が高利貸しになって…、というような続き版もあり、それも紙芝居になっている。ほかに高瀬舟とか、ちょっと文学的なものもあるが、やはりどちらかというところ落語や大衆演劇になっている、ちょっとコミカル、あるいは皆がおおよそ知っているものの方が人気がある。もし内容を検討することがあれば、ちょっと砕けた娯楽になるような、笑いが起こる落語的なものを増やしてほしい。シニア対象のものが少しずつ増えていると感じる。

(2) 令和6年度事業計画(案)について

委員：読み聞かせボランティア4団体で2月末に年1回集まる会があった。その時に、おはなし会をする場所について、今は一番奥の視聴覚室を使っており、広くて、いろいろな機材を遠慮なく使えるので良いが、階段を使って上がって来るのが大変なので、視聴覚室でやる事を前提にエレベーターの存在をもう少し周知して、ベビーカーや車椅子も2階に上がれることを知ってもらえるようにすると良いと思う。図書館に入って正面の案内版下に「エレベーター、一般の人でも使えます」という案内が1ヶ所あるが、あれだけだと分かりにくい。例えばおはなし会がある時だけでも「エレベーター、こちらにあります」と自然に目に入る案内があっても良いと思う。あとエレベーターを何回か利用したが行きづらい。関係者以外立ち入り禁止のような感じの所なので、もう少し入りやすい工夫ができれば良いと思う。

委員長：本を運ぶための運搬用エレベーターを新しく変えた時に市民も利用できるようにした。当日にもっと大きく表示する等のPRがあると良いと思う。そして行きやすく親しみやすい、利用しやすい、利用者がストレスを感じないような形も大事になってくると思う。

事務局：現在は放送時に「エレベーターご利用の方はご案内します」とひと言添えており、職員がベビーカーをひいている人に「こちらにエレベーターあります」と直接案内している。プラスする形で看板について検討したいと思う。

委員：図書館が休館時に、友人がとても気に入っていた本の福袋はもうやらないのか。

事務局：福袋を始めたきっかけが、web予約ができなくて本が読めなくなってしまう人にも本を楽しんでもらうためと、普段は小説しか読まない人やこの分類の本しか読まないという人も多いと思い、そういった人には違った本をぜひこの機会に手に取ってほしいということで、中身が分からないようにした福袋を始めた。利用は2ヶ月で900袋を超えた。このままもうやらないというのはもったいないという意見は職員の中からも出ている。この場でも良かったという意見もいただいたので、なにかの機会にできないかこれから検討していく。

委員：福袋は東北の方から始まり、やる図書館がたくさん増えたということは何回か話した。閉館に近い状態の時にたまたま遭遇したお年寄りの人は、「休みだと思ったけど開いてるんだ〜」「貸りれないんだ〜」と言いながら、福袋を見て「1つ貸りてこかな〜」と言っていた。たぶん今回はそういう感じの人が多く、その関係で少し袋の数が多くなったのではと思う。でもすごいことなので、続けるのは大変だろうが良いと思う。

委員長：今回はトイレ改修のため2月16日まで通常開館ができず、苦肉の策ではないがそういう案を出してやったら、それが市民に好評で嬉しく思う。今日来た時に、2月16日までの閉館中に購入していた新刊の本がよく目立つように置いてあり、いろいろきめ細やかに配慮されているなど感じた。最近辞典等を見ていると新しい発見があり、すごく楽しい。1つ聞きたいことがあるが、最近の大きな辞典等にDVDが付いているものがあるが、自分が見た本の中に「DVDは貸出できません」という文言が書いてあった。やはり無くなったり破損しやすいから貸出できないのか。

事務局：出版社がこの本のDVDは館外貸出不可と制限をかけている。出版社が個人貸出の許可を出しているものは本にDVDを付けて貸出している。

委員：若い議員から、「豊明は新刊がなかなか入らず魅力が無いと若者が言っていた」と聞かされた。「今回南部が綺麗になりたくさん新刊が入ったので、今豊明市の1人当たりの図書購入費が200円から240円位に、これは南部の新刊購入で上がった。豊明は近隣市町村に比べると一番低く1人200円で、平均は250円位だ」と詳しい人が言っていて、「豊明は全然到達していない。たぶん今回の246円も来年再来年には下がるだろう」と、「だけど読み聞かせの街と謳っているからには平均までは欲しい。若い人が期待しているので、ぜひ単価を下げない努力をしてほしい」と言われた。

事務局：大府や長久手の場合は図書館の規模自体が違う。豊明の蔵書数は上限があり、例えば今回、南部改修で本の入れ替えを行い246円だが、毎年それだけの本を買う事は毎年それだけの本を捨てる事となる。その中で、図書館として残すべき資料は残していくバランスも必要。もちろん1人当たりの金額が高く、たくさんの本が買えるのは良いことだが、本を何処に保管するのも検討しながら購入しているという事は委員には知っておいてほしい。図書館としても市民に新しい本をたくさん読んでもらいたい。

委員：平均は変わらないのでは。長久手や日進等、全国平均で比べたらかなり低い。

委員：そんなに低くはない。開館当時に比べると横ばい位、主要事業の本館図書購入費が令和6年1,330万円だが、以前に比べて大分下がっている気がする。

委員：人口はちょっと増えている。だから停滞気味かも。

事務局：図書館は図書館年鑑という統計本を元に他市町と比べている。全国平均と比べ、豊明がかなり低い訳ではない。ただ、近隣は人口が多く新しい図書館が多いため、豊明の数値が低いというのは間違っていない。

委員長：南部は、名古屋の会社帰りの人等を対象に絞った形だが、簡単で結構なので今の利用状況はどんな感じか。

事務局：新刊を多数並べていた本棚が、思った以上に新刊が無くなっていて、前に比べると多くの本が借りられていると思う。

委員：学習室がすごくキレイで広がっていてびっくりした。

委員長：学習スペースができて、自分の部屋が無くてリビングで勉強する等悪条件の子どももいて、本当に随分利用者もいるみたいだ。

委員：すごく明るくなった。

事務局：壁を綺麗にして本棚を低くしたので、外からの明かりが図書室に入るようになった。

委員：前は入ると本棚が目に入り狭い感じがしたが、今は広々として良い感じになった。

委員長：本当に良い場所ができて良かった。

委員：良い絵本だと言われた絵本を検索すると、閉架に入っている本が時々出てくる。閉架にどんな本があるのか検索できるか。一覧表みたいなものはないのか。

事務局：「閉架」というボタンを作っていないので探せない。一覧表も作成していない。

委員：閉架にすごく良い本がたくさんある。

委員：場所がなくて表に出せない。昔の懐かしい絵本はみんな閉架に入っている。

委員：学校の先生に、学校の子どもの本等が今どんな感じになっているのか聞きたい。

委員：校内図書室はどうかやりくりしながら良くしようと努力している。

委員長：今どこの学校も図書教諭がいて随分頑張っている。

委員長：以上で本日の議題はすべて終了した。